

高野山 眞言宗  
 備福山 正智院 駕龍寺

住所 〒710-0042  
 岡山県倉敷市二日市600

電話 086-421-5631  
 発行人 富山義賢  
 ホームページ <http://www.karyuji.jp/>



高野山開創  
1200年



駕龍寺定紋

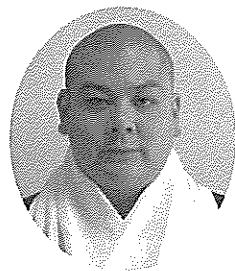


題字 / 弘法大師

# 献寿歳日

備福山 正智院 駕龍寺

住職 富山 義賢



あけましておめでとうございます。  
 年頭に当り、平成二十六年、皇紀二千六百七十四年の新春を御慶び申し上げ、謹んで御皇室の弥栄を壽ぎ奉り、檀信徒皆々様の御隆昌と御壯健を祈念申し上げます。昨年も当山に對しまして格別の御信援を賜りましたこと、衷心より厚く御礼を申し上げます。本年が日本国並びに国民にとつて、幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

古来よりお正月は門松・松飾りに象徴されるように、新年といえはやはり松や竹の緑を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。松も竹も縁起のよい植物の代表です。これに梅を加える松竹梅は昔より「歳寒の三友」としてめでたさの象徴とされてきました。その松と竹のありようを有と無、古今と上下の対比をもつて、仏教の妙理を示した言葉に

## 松に古今の色なく、竹に上下の節あり

という句があります。

時の流れは、松の緑のように永遠に変わらないものですが、その変わらない中であつて、一年の節目である正月は、竹の節の一つといえるでしょう。新年を迎えて、知人に会えば、「明けましておめでとう」と挨拶をします。そのとき、「昨日が今日になつただけ、いつもと変わらないじゃないか。何が明けましてめでたいんだ」という人があるとしたら、その人は、松に古今の色が無いことは知つていても、竹に上下の節のあることを知らぬ人でしょう。

逆に「正月だ」「年の初めだ」といつて浮かれてばかりいる人は、竹に上下の節のあることは知つていても、松に古今の色が無いことを忘れている人でしょう。物事をみるには、変らないものと、変わるものとの二つの視点が必要なのです。

「理事」とか「理事者」という言葉は、ごく身近によく使われる言葉ですが、「理事」はもともと仏教の言葉で、理とは根本の道理、事とは表にあらわれた現象のことです。したがつて、会社の理事者とか農協の理事というものは、会社なり農協なりの運営の大綱を把握するとともに、現実の具体的な問題の処理にあたる人のことを指します。草木に例えるならば、

理とは土に埋もれて見えない根であり、事とは地上にあらわれた幹や枝葉のことです。切花はどんなに美しくとも根がないのでその生命は短かく、あつという間に枯れてしまいます。同じように、いかに現実の具体的な問題に通暁し、またこれが処理の術に長じていても、大局を把握していなかつたら、やがては行き詰まつてしまふであろうことは免れがたい運命でありましょう。

にもかかわらず、事は理にくらべると、直接的で身近であり、それだけに取り組みやすく、かつまた現実の生活に結びついているので、人はともすると理を忘れて事のみ走り、根無し草の一生を送りかねません。

## 華容は年の賊に偷まれ 鶴髪は禿祥ならず (性霊集)

つまり「花のごとく麗しき姿は、やがて時の流れに奪い去られ、白髪もめでたきしとはならぬ」とおっしゃつて、理を忘れ、ただわけもなく事に浮かれている人々の心を戒められたのです。

正月を、いや正月だけでなく、己が職分、そして人生を意義あらしめるには、松に古今の色がないという理の面と、竹に上下の節があるという事の面と、両面に心を配らなくてはなりません。

一年の計は穀を植ゆるにあり  
 十年の計は樹を植ゆるにあり  
 百年の計は徳を植ゆるにあり  
 人のもつとも植ゆべきは徳なり (義堂周信)

食料生産には、春に何を植え、秋に何を収穫するか、年間の段取りが必要であり、植樹には「桃栗三年、柿八年」というように、十年単位の物差しという長短の節が必要であり、人の一生には百年の大計が必要であり、人生にとつて最も大切なことは、古今無色の徳を積むことです。

結びに、「正月」とは、「修正月」の略語です。修正とは、「心身を正しく修める」つまり、自らの心をのぞき、善悪の判断がしっかり出来ているかどうか点検するということです。

檀信徒の皆様におかれましては、新年を迎え、心身を正しく修め、ご本尊さまのご加護を頂き皆様各々の希望にむかつて今年一年邁進されますことをご祈念申し上げます、新春のご挨拶とさせていただきます。

南無大師遍照金剛

合掌

高野山開創1200年 生かせいのり 平成27年4月2日~5月21日  
 記念大法会 大師のみおしえ いまここに

### 駕龍寺の新たな恒例行事

## 酒樽観音大祭を厳修

### 大般若転読法会

#### 十一月十七日(日)午前十時

今年の大祭は十一月十六日(日)午前十時です。

食の安全が危ぶまれている今こそ、飲食感謝・報恩謝徳の精神から生活の安全を祈願いたしましょう。お誘いあわせの上、大勢の御参詣をお待ちしております。

駕龍寺には、江戸時代中期の明和八年(一七七二)に成立した帯江三十三観音霊場の十九番と二十二番、三十三番札所として三体の観音像が奉安されています。中でも結願である三十三番の観音様は、酒樽を形どった台座の上に立たれている大変珍しいお姿をされており、心身の健康、家庭の円満、仕事の成功等に大きな功德があるとされています。そのお姿にちなみ駕龍寺では本年より、酒の功德を称え、そのありがたさに感謝して酒を奉納して供養する酒樽観音大祭の創設を発願し、第一回目の大祭を厳修いたしました。当日は富山義賢住職導師のもと、結衆・法縁各寺院方が参集し、大般若転読法会を厳修。世界平和と国家安穩、参詣檀信徒の心願成就を祈願、本堂を埋めた檀信徒の皆様もご一緒に般若心経と御真言をお唱えして心願成就を祈りました。法会后には住職の法話に続き、この時だけに配られる大般若の祈禱札をはじめ、お下がりの御供物や、御神酒などのお接待が配られました。



### 霊場本尊のお色直し

#### 酒樽観音大祭に合わせ

酒樽観音大祭創設の一環として、境内中門脇にお祀りしてある、帯江三十三観音霊場本尊(十九番、三十三番、共に石造)の整備をいたしました。

これまで観音さまと共に祀りされてきたお地藏様を独立して奉安し、霊場本尊の二体の観音様も、檀信徒の皆様により親しみやすくお詣りいただくために水をかけてお参りいただく「水手向け観音」として生まれ変わりました。

仏様に水を掛けて拝む事は、そもそもは、お供え物を持ち合わせていなかった参拝客が、思わず水をかけて手を合わせたのが始まりだと伝えられます。苔に包まれてすっかりきれいな緑色になった大阪法善寺のお不動さんの姿を見れば、たくさんの人たちが水をかけて願いをこめてきた歴史の長さが偲ばれます。「水をかけて、願もかける」語呂合わせですが、そういう意味もこめられています。

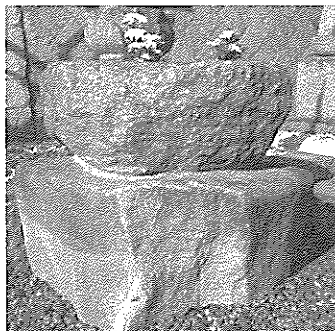
御参詣の節は、ぜひ観音様にお水を御供えして御利益をお受けください。

なお、御供えするお水は、観音様の前の水鉢のお水です。水鉢が空の時は隣の手水場から木桶で水を足してください。さるようお願いします。

### 奉納御札

#### 酒樽観音水鉢台石一式

藤原篤男様(倉敷市加須山)



### 謹賀新年

高野山真言宗 駕龍寺

住職 富山 義賢

責任役員 藤木 萬平 総代 那須 昭文

陶浪 保夫 小原 惣一郎

大熊 公夫 藤原 金一

岡本 通 藤原 公男

高木 久志 中村 晃大

藤井 繁夫 藤木 達夫

眞鍋 兄一

(平成二十五年六月 就任)

備福山小史 平成二十五年 下半期

盂蘭盆大施餓鬼会

八月十七日、午前十時より駕龍寺本堂にて毎年恒例の盂蘭盆大施餓鬼会が厳修されました。

法会では初盆を迎えられる精霊のご遺族を中心に、多数の檀信徒の皆様方々が参列され、富山住職導師のもと法縁寺院各師の読経の響く中、参列者は焼香して、各家先祖代々ならびに有縁無縁一切精霊の冥福を祈りました。



法会に引き続き大阪府摂津市金剛院松政暁導師の法話があり、その後参列者は内陣に設けられている精霊檀と本堂入口の施餓鬼棚に施食の供養を捧げて、お盆の行事を締めくくりました。

高野山参拝旅行

昨年十月二日、三日の両日、秋の団参として高野山参拝を実施しました。今回は十六名の参加者でしたが、お天気にも恵まれて秋の高野山を満喫した旅となりました。

今回はいつもの高野山参詣に加えて、曼荼羅の世界に入り、仏さまとご縁を結ばせて頂く真言密教における、最も尊い儀式「結縁灌頂(金剛界)」を受けさせて頂きました。結縁灌頂には、世界各国からの参加があるようで、高野山の僧侶達が英語、中国語、韓国語、??の言葉で応対していました。

高野山全体の本堂である金堂の中に入り、暗闇の中で行われる儀式は幻想的でとてもありがたい貴重な体験となりました。

参加者の皆様からご感想を頂きました。

- ・とても楽しい時間をありがとうございました。
- ・高野山に入ってからどんどん体が軽くなり、気持ちよくスッキリしました。
- ・大日如来様とお大師様とご縁を繋いで頂きありがとうございました。



・念願の高野山に行けました。ありがとうございました。

・ガイドさんの話しも良かったし、お食事もおいしかったです。

・大切な一日になりました。何だか自分に素直になれそうです。

・結縁灌頂ではなぜか涙が溢れてきました。今日ここに来ることが決められていたのだと強く感じました。

・管長猥下のお話と記念撮影など、駕龍寺主催の旅行でなければ決まできない特別な体験に感激しました。

等々

・沢山の感想ありがとうございました。

・今回もお世話になりました、JT B倉敷支店の廣瀬弘享氏、東洋バスの運転手さん、ガイドさんに心から御礼申し上げます。

募集 駕龍寺心の旅バスツアー

●伊勢神宮と伊勢の霊場の旅 (二泊二日)

■出発日 二月十二日(水)

■旅行代金 三万六千円(大人一名様)

昨年は、式年として定められた二十一年に一度の遷宮の年。飛鳥時代にはじまり、二十一世紀に入っては初の御遷宮として、千三百年以上続く一大神事です。

式年遷宮では内宮・外宮の御正宮をはじめとする建築物はもとより、神々の御装束神宝もすべて一新されました。その数、約八百種千六百点。式年遷宮は日本古来の建築や美術工芸の優れた技術を脈々と伝承するお祭りともなっています。平成二十四年に外宮に建てられた「せんくう館」で、式年遷宮の歴史と遷宮が伝える優れた技術の一端に触れることができます。

新旧のお宮が並んで立つ貴重な光景を皆さんでお詣りいたしましょう。お問い合わせは駕龍寺までお願いいたします。

(別紙行程表)

# 本堂正面の 扁額が完成

書：高野山真言宗管長・総本山  
金剛峯寺第四百十一世座主  
松長有慶大僧正猥下



この程、  
本堂の正面  
を彩る扁額  
が完成致し  
ました。

この書は  
右から、  
『補陀洛殿』  
と書かれて  
おり、『補  
陀洛』とは  
駕龍寺の本

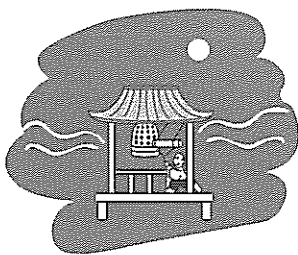
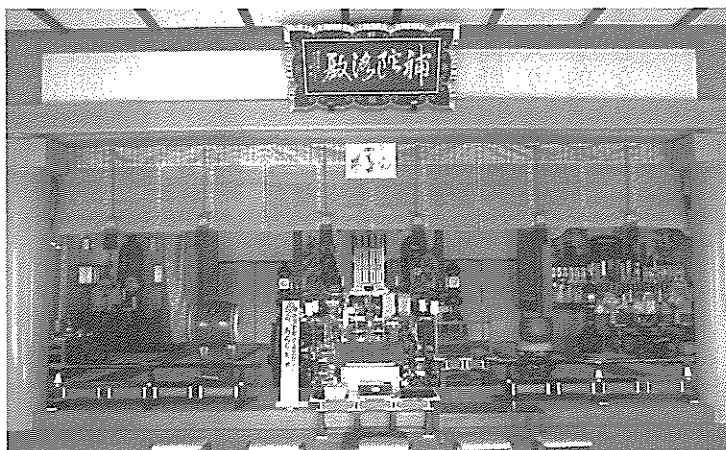
尊である観世音菩薩の住処、あるいは降り立つとされる山のことで、日本では古来より海のかなたにある理想郷とされてきました。

駕龍寺の「本堂」を皆様の心安らぐ理想郷となるお堂にしたいという住職の想いから、御本尊の浄土の名を採って『補陀洛殿』と名づけるに至りました。

額の文字は平成二十年に三十一世義賢住職の晋山を記念して、松長管長猥下が揮毫してくださったもの

で、その後、京仏具の匠である田平製作所(京都市)の伝統の技によって五年の歳月をかけて完成したものです。

お詣りの際にはこの扁額をどうぞ間近でご覧下さいませ。



## 御本尊 観世音菩薩・弘法大師 のほり幡奉献



皆様方のお願いを託した「祈願のほり」の奉納を受け付けております。

駕龍寺境内に観世音菩薩・弘法大師の轍をご奉納下さい。祈願幟として皆様のおねがいごととお名前を浄書いたします。本堂にて祈願の後、約一年間、境内の参道に掲揚させていただきます。

◎冥加料 のほり一本 二千元

◎祈願 ・家内安全 ・学業成就  
・交通安全 ・家内安全  
・厄除祈願 ・商売繁盛  
など

申し込み：お寺にて受け付けております。

## お願い 「参加会にお入りください」

お大師さま高野山開創  
千二百年を迎えるにあたって

お大師さまは今もなお高野山奥之院で永遠の御入定に入っております。その願いはすべての宗派や身分・職業果ては国境をも越えて生き続けています。ここに、弘法大師を尊び敬愛し、信仰する皆様と共に弘法大師高野山開創千二百年大法会を成功に導くため、何卒お力添えをたまわりたく、高野山真言宗参加会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

皆様方がお大師さまの御加護を受けられ、お幸せでありますように。

高野山真言宗参加会事務局

参加会とは、正式には高野山真言宗参加会とい、総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師(空海)のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願におこたえすることを目的とする信仰団体です。

●お大師さまと共に広げるこころの輪、現代の高野聖としてお大師さまのみ教えを広げていくために活動を行っています。会員になれますと、年二回の研修会や、高野山教報の購

# 年末年始のご案内

## □除夜の鐘

十二月三十一日

午後十一時四十五分頃より

一年の厄災、けがれを清める除夜の鐘。本来、一〇八あるという人間の煩惱を消し去る意味で一〇八声鳴らされます。

駕龍寺では例年、この鐘をご参拝の方々にそれぞれ一打ずつ鳴らしていただいておりますが、より多くの方々に身を清めていただき、新しい気持ちで新年をお迎えいただきたいという思いから、一〇八声に止まらずご参拝の方々全員に鳴らしていただくことにいたしております。是非、この機会にお参りください。

## □初詣

初詣は年の初めの大切な行事です。駕龍寺の観音様・お大師さまに今年一年の御守護・開運をお祈りすること、が運氣上昇の第一歩です。当山では、元旦午前零時より厄除開運・交通安全・良縁祈願・家内安全・心願成就など新年諸願成就のおつとめをいたします。

## ■一月一日

午前零時～午前一時半頃まで修

正会

御本尊御開帳(一月十七日まで)

酒水特別加持(一月二日まで)

吉祥宝来(千支の切り絵) 無料授与

御屠蘇拜戴

甘酒・御神酒のお接待

## ■一月二日～七日

本堂開扉 午前八時～午後四時半  
吉祥宝来(千支の切り絵) 無料授与  
御屠蘇拜戴

御神酒のお接待

いずれもなくなり次第終了

## ■一月十七日

午前十時

初観音(どんと焼き)

本年の『どんと焼き』は例年同様十七日(金)午前十時です。

一年間お守りいただいた、お札をはじめ、お守り、また新年に御飾りいただいた、しめ縄等をお焚きあげる大切な行事です。

十時からの勤めの後で、集められた全てを、清め祓いをし、撥遣(俗におしよねを抜くということ)の儀を執り行います。そこから始めて焚きあげが始まります。

また、『ぜんざい』の振る舞いもありますので、どうぞ来山ください。なお、火を入れるのは一月十七日の午前十一時頃です。

# 計 報

## 高橋 祐一郎氏

(倉敷市帯高三三三 元帯高地区世話役)

去る平成二十五年十月三十日午後七時五十二分、誤嚥性肺炎のため逝去。行年九十三歳。哀悼。

葬儀は、十一月一日正午からファミリエ茶屋町において、富山義賢駕龍寺住職導師のもと厳修し、遺族、親族等参列し盛儀であった。

喪主は孫の寛氏。

駕龍寺では平成二十二年まで帯高地区世話役を務め、永年にわたり住職を扶け、菩提寺の護持に尽力されました。

## 横野 郁敏氏

(倉敷市黒崎五二〇 黒崎、前・中組世話役)

去る平成二十五年十一月二十七日午後五時十二分、急性肺炎のため逝去。行年七十八歳。哀悼。

即ち、葬儀は十一月二十九日午後二時からアーバンホール中庄において、駕龍寺住職導師のもと厳修し、遺族、親族をはじめ会葬者多数参列し盛儀であった。

喪主は長男の誠之氏。

駕龍寺では多年にわたり黒崎地区世話役を務め、中庄地区では青少年の健全な育成に尽力するなど、社会貢献に寄与されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌

読、高野山へお参りの折りは各所内拝料無料、参拝記念としてお線香を贈呈致します。

●研修会参与会では年一回研修を行っております。内容は、受戒、阿字観や法話聴講、勤行、下座行(掃除御詠歌)などです。開催については、毎月二回送られる「高野山教報」のご案内になります。会員の皆さまからは、大変好評を得ている研修です。

●物故者慰霊碑は、篤いご浄財により建立され、平成十四年十一月十日奥の院において慰霊碑開眼法会が執り行われました。参与会員は、枢義・参与物故者慰霊碑におまつりし永く供養を捧げます。

●会員になると、高野山真言宗管長参与(会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジを授与致します。また、参与袈裟をつけて高野山にご登山くだされば、諸堂、霊宝館の内拝が無料となり、金剛峯寺に参拝されると、記念品としてお線香を贈呈いたします。月二回発行の「高野山教報」をお届けし、高野山真言宗が発行するパンフレットなど印刷物をその都度お届けします。

## ●年会費 一万円

この年会費は、お大師さまのみ教えを一人でも多くの人に知っていただくための広報活動に役立てられています。

お問い合わせ、パンフレットご希望の方は駕龍寺まで

# 年中行事

●修正会 一月一日午前零時  
 ●節分会 二月三日午後三時  
 ●四萬六千日諸願成就  
 御開帳祈願法要 七月十日午前十時

●孟蘭盆大施餓鬼会 八月十七日午前十時  
 ●秋季彼岸会・永代経供養 九月十七日午前十時

●酒樽観音大祭 大般若転読法会 十一月十六日午前十時

●除夜会 十二月三十一日午後十一時三十分

○鎮守講 毎月一日午前十時  
 ○観音講 毎月十七日午前十時  
法話、おとき差し上げます。

○大師講 毎月二十一日午前十時  
 ○奉仕の日(境内清掃) 概ね毎月二十八日午前中

※御供養・御祈祷随時受付(要予約)  
 ※いずれの行事にもお誘いあわせ、お気軽に御参詣ください。  
 ※春・秋参拝旅行実施

## 投稿募集

皆様の疑問質問にお答えします  
 お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験や日常生活で感じたことなどを寄せください。また「お答えします」のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構ですので、いろんな質問をお待ちしています。

## 平成二十六年 年忌線出表

命日の当日に法事が出来なければ、なるべくそれよりも前の日に行うべきだというしきたりは、「人間はいい加減なものなので、いつでもいいとなると、どんどんおろそかになつていくから、当日にできなかつたり、土曜や日曜に執り行いたい場合は、命日より前にしなさい」と、昔の人は教えてくれていました。命日を過ぎてから法事をしたら良くないとか、祟りがあるという意味ではありません。

だから命日を過ぎていたとしても、法要をしないでおくよりは、遅れてでもした方が供養になるのは確かですから、是非行つてあげてください。  
 ただし、供養の気持ちがあればいつ法要をしたっていいんだよとい

法事は御命日に、もしくは御命日に遅れないように計画致しましょう

う、自分勝手な解釈こそが一番いいけません。そうならないように昔から、節目毎に法要をする年が決められているのです。

一周忌	平成二十五年	逝去
三回忌	同 二十四年	〃
七回忌	同 二十年	〃
十三回忌	同 十四年	〃
十七回忌	同 十年	〃
二十三回忌	同 四年	〃
二五回忌	平成 二年	〃
二七回忌	同 六十三年	〃
三十三回忌	同 五十七年	〃
三十七回忌	同 五十三年	〃
五十回忌	同 四十年	〃
七十回忌	同 二十年	〃
百回忌	大正 四年	〃

## 宛先

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒七二〇・〇〇四二 岡山県倉敷市二丁目六〇〇  
 高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

●Eメールの場合は info@kan'yūji.jp まで  
 ※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。

## 慧燈星懸 (編集後記)

▼早いもので、第七号の発行となった▼ゼロから始めた寺報も皆さんの声に支えられ、試行錯誤を重ねながら少しずつ形が整ってきた▼昨年は数十年前ぶりに駕龍寺の年中行事が復活した▼その時の大般若転読に使用した六百巻の経巻は明治十年代に一人の檀家の方が自力で奉納したものだ▼平成の現代、この経典を新調しようと思うと数百万円はくだらない▼当時は神仏に対する並々ならぬ思いが奉納という形に現れたのだろう▼今回も酒樽観音の宝前にある水鉢の台座を奉納してくださった方がおられる▼この方の思いは、駕龍寺が続く限り幾百年も観音様が見つめて下さることだろう▼信は荘厳なり▼信仰は仏様の前に心こもつた供養物を整えることから始まるという意味だ▼心の中だけ信仰心を持っていればそれで良いという事ではない▼信仰を形にして表す事が大事なのである▼心があれば形式にこだわることはない▼現代人は形式を軽んじてきた。儀式を軽んじ、作法を軽んじ、袂を軽んじ、その結果、心が見失われた。大きな誤解である▼形式・作法・儀礼・お仏壇のお荘厳を含めようとした形に託して大切にその心は伝えられてきたのである▼高野山御開創千一百年を一年後に控え、新しい試みと境内の整備が少しづつではあるが着実に進捗している▼総代、檀信徒の中に「信は荘厳なり」の精神が芽生えてきた証だろう▼住職になつて六年にもなると、晋山以来親しくお付き合いいただいている檀家の皆さんの中にも鬼籍に入られる方がおられる▼昨年は二人の世話人さんをお大師さまのもとにお送りした▼親しい人との別れは辛く寂しいものであるが、一方で自分か引導をお授けできて良かったという思いもある▼右も左もわからない新米の住職を陰日向なく支えてくださった方々に対する一番の恩返し▼それはその人の人生の最後に、心を込めた葬儀を勤めることに尽きるといふ思いがあるからだ▼これは僧分の者にしかできないことであり、我々が常に心しておくことである▼二月には駕龍寺として初めての伊勢参宮バス旅行がある▼二十一年一度の式年遷宮を無事に迎え、槍の香も新しいお伊勢さま、二見浦・神宮の鬼門を守る金剛證寺にお参りします▼江戸の庶民がお参りしたのと同じコースを巡るバスツアーです▼お誘いあわせ多数のお申し込みをお早めにお願いたします▼本年も駕龍寺と寺報「福寿海」をよりよくお願いいたします。